

5 中高年の就業 50代時点で無業の女性は65歳以降も9割が無業——厚労省調査

厚生労働省は11月24日、「中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）」の第16回（2020年調査）の結果を公表した。第1回調査の2005年時点で無業の女性は、15年後の2020年も9割が無業の状態にある。2005年時点で仕事をしており、かつ65歳以降も仕事をしたいと答えていた人のうち、2020年に実際に仕事をしている人の割合は、65～69歳では男性が67.4%で女性が53.3%。70～74歳では男性が52.6%で女性が41.2%と、どちらも男性のほうが高い割合となった。

調査は、2005年時点で50～59歳だった男女を対象に、毎年追跡して調べているもの。今回調査での対象年齢は65～74歳となっている。調査票を回収した1万9,644人のうち、第1回調査から今回調査まで集計可能な1万7,084人を集計の対象とした。

働いていない人の割合が57%に

就業状況の経年変化をみると、調査を重ねるにつれて働いていない人の割合が増えている。2005年の1回目の調査時点（50～59歳）では18.3%だが、2020年調査（65～74歳）では57.0%にのぼる。「正規の職員・従業員」は2005年調査では38.5%にのぼったが、2020年調査では3.5%となっている。

男女別にみると、男性の2005年調査での就業状況は「正規の職員・従業員」が61.5%で最も高かった。05年に「正規の職員・従業員」だった男性の2020年の就業状況は、「仕事をしていない」が53.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.2%、「労

働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託」が11.4%となっている。

一方、女性は2005年調査では働いていないとする人が29.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が29.1%だった。2005年に働いていなかった女性は、2020年も90.2%が働いていない。2005年に「パート・アルバイト」の女性は、2020年は60.3%が働いておらず、「パート・アルバイト」が32.4%となっている。

65歳以降の就業希望は男性のほうが高水準

2005年調査時点で仕事をしており、かつ「65歳以降仕事をしたい」と回答していた人について、2020年に実際に働いている人の割合をみると、男性は「65～69歳」が67.4%、「70～74歳」が52.6%となっており、半数以上が実際に働いている。一方、女性は「65～69歳」が53.3%、「70～74歳」が41.2%となっており、男性よりも低い水準となっている（表）。

女性のほうが頼りにする相手が豊富

日頃から頼りにしている相手を尋ねたところ（複数回答）、男女ともに「同居している親族」が6割以上と最も高く（男性67.9%、女性66.3%）、男女の差はほとんどない。

次いで「同居していない親族」（男性39.4%、女性57.4%）、「友人」（男性31.4%、女性43.5%）、「近所の人」

表 2005年調査時点で仕事をしており、かつ「65歳以降仕事をしたい」と回答した人の2020年調査での仕事の有無（単位：%）

	仕事をしている	仕事をしていない	不詳
男性			
65～69歳	67.4	32.5	0.1
70～74歳	52.6	47.2	0.2
女性			
65～69歳	53.3	46.6	0.1
70～74歳	41.2	58.2	0.6

（男性15.6%、女性22.3%）の順で、いずれも女性のほうが高い割合となっている。「頼る相手がいない」とする人は、男性が7.7%に対して、女性は2.7%となっている。

4割は一貫して健康状態が良好

健康状態について、2005年の第1回調査から一貫して良い人（「大変良い」「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかを一貫して回答）は40.0%。男性が39.3%、女性が40.2%で、男女差はほとんどない。さらに年齢別にみても、男性は65～69歳が40.2%、70～74歳が38.5%、女性は65～69歳が42.2%、70～74歳が39.2%と、こちらもそれほど差はみられない。

健康な人は運動や食事を意識

健康維持のために心がけていること（複数回答）について、2005年調査からの健康状況および男女別にみると、第1回目から一貫して健康状態がよいと答えた男性は「適度な運動をする」が13.7%で最も高く、一貫して健康状態がよいと回答した女性は、「バランスを考え多様な食品をとる」が18.5%で最も高くなっている。

（調査部）